

政策番号	12	政策分野	国際化
------	----	------	-----

基本方針 1200年を超える歴史のなかで京都が蓄積してきた日本の文化を広く発信し、世界の国々からの訪問者を積極的に受け入れ、多彩な交流機会を通して新しい文化を創造し続ける国際都市をめざす。また、市民の外国文化に対する関心や理解を高め、多文化が息づくまちづくりを推進する。

担当局	総合企画局
-----	-------

共管局	産業観光局
-----	-------

政策の評価

1 客観指標評価

指標名	23年度 評価値	32年度 目標値	23 年度	24 年度	25年度評価				
					前回値	最新値	目標値	達成度	評価
1 京都市国際交流会館登録ボランティア数(人)	421	800	a	a	457	478	537	89.0%	a
2 コンベンション開催件数(件)	157	-	a	c	137	189	250	75.6%	b
3 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-
客観指標総合評価				a	b	a			

2-1 市民生活実感評価

番号	設問	評価		
		23年度	24年度	25年度
1	京都には、世界から観光、留学、ビジネス等を目的として訪れるひとびとを引き寄せる魅力と、受入環境がある。	b	b	b
2	京都は、文化資産の継承、環境にやさしい取組などを通して、平和都市として国際社会に貢献している。	b	b	b
3	国籍、民族、文化等が違って互いに理解し合い、ともにいきいきとくらするまちになっている。	b	c	c
4	京都では、市民、民間レベルでのさまざまな国際交流が盛んである。	b	b	b
5	-	-	-	-
6	-	-	-	-
7	-	-	-	-
8	-	-	-	-
市民生活実感調査総合評価		b	b	b



2-2 政策の重要度(27政策における市民の重要度)

23年度		24年度		25年度	
順位	%	順位	%	順位	%
19	12.2%	19	11.8%	20	79.0%

3 総合評価

B	政策の目的がかなり達成されている		
	<p>【客観指標】・国際交流を支えるボランティア数は、目標値には達していないものの、ボランティア活動の機会提供や研修をはじめとした人材育成へのサポートにより、前年度に引き続き堅調に増加していることから、a評価となった。</p> <p>・コンベンション開催件数については、国際会議開催状況が東日本大震災の影響から順調に回復し、開催件数が増加したことから、b評価となった。</p> <p>【市民の実感】・市民の実感については、全体として昨年度と同様の評価となった。</p> <p>・多文化の共生に関しては、「どちらとも言えない」という回答が多いものの、京都の魅力や国際貢献、国際交流の活発さなどのその他の設問については、昨年同様、かなり肯定的に評価されている。</p> <p>【総括】・客観指標について、ボランティア数は順調に増加しており、一時的に落ち込んだコンベンションの開催件数についても、回復が見られ、増加した。多文化共生に対する市民の実感の評価が横ばいではあるが、全体としては、客観指標、市民の実感共にかなり肯定的な評価となっていることから、市民の実感につながるよう、引き続き、取組を推進する必要がある。</p> <p>・こうしたことを総合的に勘案し、この政策の目的は、かなり達成されていると評価する。</p>	24年度	B
		23年度	B

今後の方向性の検討

<この政策を構成する施策とその総合評価>

施策番号	施策名	評価結果			参照ページ
		23	24	25	
1201	世界中のひとびとを引き寄せる京都の魅力の向上と発信	B	C	B	137
1202	市民主体の国際交流・国際協力の推進	A	C	A	139
1203	外国籍市民等がくらしやすく、活躍できる多文化が息づくまちづくりの推進	B	C	C	141

<今後の方向性>

・世界の人々を引き寄せるまちの実現に向け、文化、産業、大学、環境等、京都が持つ魅力を世界に発信するとともに、安全情報をはじめとした各種の行政情報などの多言語化、MICE推進体制の強化、国際交流の拠点・コンベンション機能の充実や受入環境の整備を推進する。また、策定後の社会状況の変化等を踏まえ、「京都市国際化推進プラン」の中間見直しを行う。

・国際社会に大きく貢献するとともに、市民、民間レベルでの国際交流の定着に向け、歴史都市・京都が積み重ねてきた先進的取組の発信や、京都・ケルン姉妹都市提携50周年記念事業など、姉妹都市やパートナーシティをはじめとした各都市等との国際交流・国際協力を推進する。

・多文化が息づくまちの実現に向け、市民が求める多文化共生・国際交流の姿を把握するとともに、地域での多文化交流、外国籍市民等へ向けた情報提供などにより、外国籍市民等が暮らしやすく、また地域社会で活躍できるまちづくりを推進する。

・京都が蓄積してきた文化等を生かし、住む人にも、訪れる人にも魅力的な国際都市を目指す。

政策名	12	国際化																		
指標名	京都市国際交流会館登録ボランティア数（人）																			
担当部室	国際化推進室	連絡先																		
		222-3072																		
1 指標の説明	京都市国際交流会館に登録するボランティアの数																			
2 指標の意味	住むひとにも訪れるひとにも魅力的な国際都市への進捗状況を示す指標	3 算出方法・出典等																		
		出典：（公財）京都市国際交流協会調べ																		
4 数値	<table border="1"> <tr> <td>10年後の（平成32年度）目標値</td> <td>平成23年度評価値</td> <td>平成32年度目標値</td> <td>根拠</td> </tr> <tr> <td></td> <td>421</td> <td>800</td> <td>過去最高値（平成20年度406人）から倍増</td> </tr> </table>		10年後の（平成32年度）目標値	平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠		421	800	過去最高値（平成20年度406人）から倍増										
10年後の（平成32年度）目標値	平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠																	
	421	800	過去最高値（平成20年度406人）から倍増																	
	<table border="1"> <tr> <th rowspan="2"></th> <th>前回数値</th> <th>最新数値</th> <th rowspan="2">推移</th> <th colspan="2">単年度目標値</th> <th rowspan="2">達成度</th> </tr> <tr> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>数値</th> <th>根拠</th> </tr> <tr> <td>数値</td> <td>457</td> <td>478</td> <td>21人増</td> <td>537</td> <td>過去最高値（平成20年度406人）と平成32年度目標値から各年度の目標を等差的に設定（32.83333人増加）</td> <td>89.0%</td> </tr> </table>		前回数値	最新数値	推移	単年度目標値		達成度	23年度	24年度	数値	根拠	数値	457	478	21人増	537	過去最高値（平成20年度406人）と平成32年度目標値から各年度の目標を等差的に設定（32.83333人増加）	89.0%	
	前回数値		最新数値	推移		単年度目標値			達成度											
	23年度	24年度	数値		根拠															
数値	457	478	21人増	537	過去最高値（平成20年度406人）と平成32年度目標値から各年度の目標を等差的に設定（32.83333人増加）	89.0%														
	<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">全国順位</th> <th colspan="3">中長期目標</th> <th rowspan="2">根拠</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>数値</th> <th>目標年次</th> <th>達成度</th> </tr> <tr> <td>数値</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	全国順位	中長期目標			根拠	備考	数値	目標年次	達成度	数値									
全国順位	中長期目標			根拠	備考															
	数値	目標年次	達成度																	
数値																				
5 評価基準	最新数値の目標値に対する達成度が a：80%以上 b：60%以上～80%未満 c：40%以上～60%未満 d：20%以上～40%未満 e：20%未満	6 基準説明																		
		当該指標については、市民や民間団体の自発的な活動意思によるところが大きいことから、80%以上をa評価とし、以下20%刻みで基準を設定した。																		
		7 評価結果																		
		<table border="1"> <tr> <td>23</td> <td>24</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>a</td> <td>a</td> <td>a</td> </tr> </table>	23	24	25	a	a	a												
23	24	25																		
a	a	a																		

指標名	コンベンション開催件数（件）																			
担当部室	観光MICE推進室	連絡先																		
		222-4130																		
1 指標の説明	1年間に京都市域内で開催された会議で、日本を含め3箇国以上から総勢50名以上の参加のあった国際会議の開催件数																			
2 指標の意味	経済、文化、国際交流等の様々な分野への波及効果を伴う国際MICE都市の実現に向けた進捗状況を示す指標	3 算出方法・出典等																		
		出典：京都文化交流コンベンションビューロー「京都で開催の国際会議」、日本政府観光局「国際会議統計」																		
4 数値	<table border="1"> <tr> <td>10年後の（平成32年度）目標値</td> <td>平成23年度評価値</td> <td>平成32年度目標値</td> <td>根拠</td> </tr> <tr> <td></td> <td>157</td> <td>-</td> <td></td> </tr> </table>		10年後の（平成32年度）目標値	平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠		157	-											
10年後の（平成32年度）目標値	平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠																	
	157	-																		
	<table border="1"> <tr> <th rowspan="2"></th> <th>前回数値</th> <th>最新数値</th> <th rowspan="2">推移</th> <th colspan="2">単年度目標値</th> <th rowspan="2">達成度</th> </tr> <tr> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>数値</th> <th>根拠</th> </tr> <tr> <td>数値</td> <td>137</td> <td>189</td> <td>52件増</td> <td>250</td> <td>国内第2位を上回る数値（250件）</td> <td>75.6%</td> </tr> </table>		前回数値	最新数値	推移	単年度目標値		達成度	23年度	24年度	数値	根拠	数値	137	189	52件増	250	国内第2位を上回る数値（250件）	75.6%	
	前回数値		最新数値	推移		単年度目標値			達成度											
	23年度	24年度	数値		根拠															
数値	137	189	52件増	250	国内第2位を上回る数値（250件）	75.6%														
	<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">全国順位</th> <th colspan="3">中長期目標</th> <th rowspan="2">根拠</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>数値</th> <th>目標年次</th> <th>達成度</th> </tr> <tr> <td>数値</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・マネジメント会議の議論に基づき、24年度から目標値を変更した（23年度評価は昨年度までの目標値（過去5年間の最高値（183件）で評価を実施）。 ・数値の公表時期の関係により、評価は暫定値で行い、前回数値は実数に修正する。</td> </tr> </table>	全国順位	中長期目標			根拠	備考	数値	目標年次	達成度	数値					・マネジメント会議の議論に基づき、24年度から目標値を変更した（23年度評価は昨年度までの目標値（過去5年間の最高値（183件）で評価を実施）。 ・数値の公表時期の関係により、評価は暫定値で行い、前回数値は実数に修正する。				
全国順位	中長期目標			根拠	備考															
	数値	目標年次	達成度																	
数値					・マネジメント会議の議論に基づき、24年度から目標値を変更した（23年度評価は昨年度までの目標値（過去5年間の最高値（183件）で評価を実施）。 ・数値の公表時期の関係により、評価は暫定値で行い、前回数値は実数に修正する。															
5 評価基準	最新数値の目標値に対する達成度が a：80%以上 b：60%以上～80%未満 c：40%以上～60%未満 d：20%以上～40%未満 e：20%未満	6 基準説明																		
		当該指標については、民間部門の寄与度が比較的高いことや景気動向にも影響を受けるため、80%以上をa、以下20%刻みで基準を設定した。																		
		7 評価結果																		
		<table border="1"> <tr> <td>23</td> <td>24</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>a</td> <td>c</td> <td>b</td> </tr> </table>	23	24	25	a	c	b												
23	24	25																		
a	c	b																		